

# 四谷の

# 千枚田だより



第 237 号



## お田植感謝の夕べ

六月三日、保存会は地域の皆さんの協力を得て「お田植感謝の夕べ」をみんなで灯そう千枚田を開催した。

当日は、前日の線状降水帯による記録的な豪雨とは打って変わって好天に恵まれた開催日和になった。この催しは、全国棚田(千枚田)サミット開催の翌年、平成十八年から



毎年行ってきたが、梅雨時にも拘わらずお天道様の味方を得てすべて開催できた。

令和二年以降は、世の中に疲弊をもたらした新型コロナウイルス感染症まん延防止のため苦渋の選択として中止とした。コロナ禍も本年五月八日に感染症法上の位置付けがやつと五類に移行。これを機に、催しを開催することとなった。試行錯誤の結果「コンパクト」に催すこ

とした。

早朝八時から会場づくりやバザーの仕込みに精を出し、午後六時から参加者を交え、作業道に千五百本のロウソクに火を灯した。七時に打ち上げ花火の号砲を合図に会長は「何とか開催できた。コロナ禍で休止が続いたが、梅雨にも拘わらず開催日和になったことは、参加者とお天道様のおかげである。開催準備、盛り上げに地域の皆さんの大きな協力にお礼申し上げる。なお、イベント開催には先立つものが必須条件であり、是非、協力金箱の活用をお願いしたい」と挨拶。催しに駆け付けた今枝衆議院議員は棚田保全と少子化対策について、愛知県新城設楽農林水産事務所建設課小松本



中川晴男氏提供

課長は施設整備、ふるさと指導員を通した各種物品支援など。地元柴田市会議員は自らも耕作者である、等々の挨拶を戴いた。

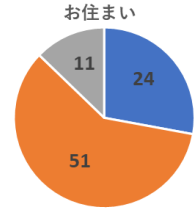
そんなこんなの中にロウソクの灯りも夕闇に段々と幻想的な風景を醸し出し、天空に打ち上げられた十五発の花火に、訪れたひとびとを感動と癒しの世界に導いた。

会場では、にわかスタンプがフラックフルトや「鳥長」の皮肝、ビール類、棚田っ娘の千枚田五平餅などを販売。一番人気は害獣駆除で捕獲したイノシシのシシ汁がどんぶり一杯百円で、大好評であった。

今回は、コンパクトに、大風呂敷も広げない開催であったが、豪雨の翌日にも拘わらず約二百人の参加者を得た。それも、これも、「四谷の千枚田」のパワーと魅力と信じてやまない。

会場では県新城設楽農林水産事務所建設課の職員が「お田植感謝の夕べ」の参加者八十六人にアンケート調査の協力をお願いした。

結果は、市外(愛知県内)から多くが訪れた。催しは、知り合いから聞いた(三十四人)、知っていた(二十九人)。これからの「四谷の千枚田」については、今の風景が続いてほしい(八十四人)、歩道改善や柵の整備補修(十一人)であった。



「お田植感謝の夕べ」をみんなで灯そう千枚田にも参加者全員が一致協力、心地よく終了できたことを、心より、お礼を申し上げます。



### 環境整備活動

五月二十七日(土)、保存会は「お田植感謝の夕べ」〜みんなでお田植〜を視野にイベント会場周辺や農道の草刈り、清掃作業を実施した。

集まった会員からは台風二号がフィリピン東海上を西に、沖縄方面に向かっているようで、三日の感謝の夕べは雨降りだ…等々の声が入ってくる。

冒頭、会長は平成十八年からお天道様のおかげで雨知らずで行ってきた。「雨を禁句に開催に向けて準備をお願いしたい」と、檄を飛ばした。

当日の作業には、愛知県新城設楽農林水産事務所建設課に昨年度まで在任していた花島さんや、今年から千枚田の百姓に仲間入りする伊藤さんも刈り払い機持参で会場整備に励んでいただいた。

会場つくりのご苦労は定番の「鳥長」の皮肝を肴にああでもない…こうでもない…と、相も変わらず棚田の百姓は個性豊かで、元気がいい。

### 記録的な豪雨 線状降水帯

今年には昨年より十六日も早い五月二十九日に梅雨入り、台風二号も怪しい気配をみせたが、六月一日には暴風域が消滅したものの、二日には、台風二号及びそれに伴う前線の活発化による線状降水帯による記録的な豪雨が東海三県にも発生、特に東三河に大きな被害をもたらした。

四谷の千枚田も昭和四十九年七月七日の七夕豪雨に次ぐ豪雨であり、段々田んぼは、さながらナイアガラのようなようであったが、流石に

先人の知恵と工夫で築かれた堅牢な棚田で大きな被害は無かった。



### モリアオガエルの不思議

平成十四年、親子観察会でビオトープに移殖したモリアオガエルも年々分布域を拡大、自然豊かな四谷の千枚田に貢献している。

毎年、産卵する杉木立の枝葉が西日を遮り、日照不足から稲の生育に影響するので五月初めに伐採した。これが、刺激になったのか約一カ月も早い五月四日の雨の日に八個体の産卵があった。また、産卵場を失った同種は約五十以上ほどの同じ条件の杉木立の枝葉を産卵適地と定め、例年の産卵時期とほぼ同様な五月二十七日に六個体を産卵その後も産卵が続いている。

嬉しいことに、六月十日未明、教科書にも掲載されたナンテン(平成十四年、親子観察会で参加児童と植えたナンテン)の樹上に今年も産卵がみられた。

**田の草取り&梅取り**  
六月一日、豊橋調理製菓専門学校生(二十一名)は五月十一日に田植えを行った三枚の実習田の田の草取りや稲の生育調査を梅雨の雨間に行った。



田の草を取り終えた学生たちは梅取りに勤しんだ。収穫した梅は教材として梅ジュースなどの加工品として活用する。

### 野外学習

六月八日、新城市立八名小学校五年生四十三名は校外学習の一環として四谷の千枚田を訪れた。

児童たちは、千枚田をみて「凄いすごい」を連発。短い時間ではあったが千枚田の変遷、日本三大石積の棚田、全部の棚田が湧き水で潤われている、モリアオガエルをはじめ田んぼの生きもの等々の説明に真剣にメモを取っていた。



### お知らせ

六月十七日(土)、中山間地域等直払い四谷集落協定(村雲伸一代表)は活動の一環として千枚田周辺、沢沿いの環境整備を実施する。

行 令和五年六月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
文 責 小山舜二